

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第31回】

温かな見守りの中での田原「まなび茶ろん」(京のまなび教室)

～ 安心・安全な居場所(茶ろん)で
子どもも大人も、いきいき、のびのび、笑顔いっぱい! ～

京都府綴喜郡宇治田原町立田原小学校長 尾崎 万佐子

宇治田原町には、小学校が二校ありますが両校とも小学校内に放課後における子どもの安心・安全な居場所である「京のまなび教室」(愛称・「まなび茶ろん」)を開設しています。この「まなび茶ろん」は、学習や遊びやスポーツ等の様々な体験活動を、異年齢の子どもや地域の方々との交流を通し、子どもたちが心豊かにのびのびと育っていくことを願い、毎週水曜日の放課後(14時30分から16時頃)に図書室で開いています。

「まなび茶ろん」という愛称は、緑茶発祥の地である宇治田原町のお茶を入れ、子どもも大人も学ぶ場としてサロンのように子どもにも大人にも温かい居場所になるようにと名づけられました。1年生から6年生まで54名の児童が参加しており「まなび茶ろん」の活動をととても楽しみにしています。運営は、この事業を支えるコーディネーターを中心に学習アドバイザー、安全サポーター等多くの地域住民のボランティアの方の協力のもとに実施されています。ボランティアの方は、元教員、社会教育委員、地域のスポーツ、絵画、書道、朗読、遊びの先生等、いろいろな特技を持ちそれを生かして指導していただきます。

この「まなび茶ろん」の大きな特徴としては、家庭学習の習慣を定着させ、学習意欲の向上を図るため学習アドバイザーらの指導で全員で宿題や読書をし、その後、体験活動(工作、スポーツ、絵本の読み聞かせ、グラウンドゴルフなど)をすることです。体験活動の第1回目は、特別講師派遣事業(京都府独自事業)の「風呂敷を使って包んでみよう」に挑戦し、子どもたちは様々な物を包める風呂敷の魅力にはまりいろいろ工夫していました。異年齢集団の中で子どもたちが思いやりの気持ちを持ち、たくましく成長してきたように思います。そして、家庭学習の習慣が身に付き、本の好きな子どもも増えてきました。また、ボランティアの方からは、「子どもたちから元気をもらい、この「まなび茶ろん」に来るのが楽しみです。」と大好評です。

今後さらに、ボランティアの輪が広がり、子どもたちと地域の方々や保護者との交流が深まり、田原「まなび茶ろん」が笑顔いっぱい、やさしい心いっぱい、元気いっぱいの交流の場、居場所となることを願っています。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第128号に掲載)